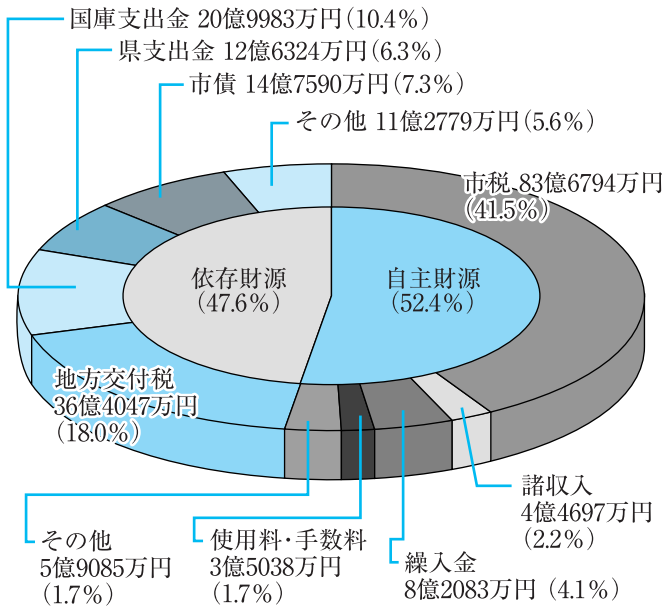


平成20年度 決算報告

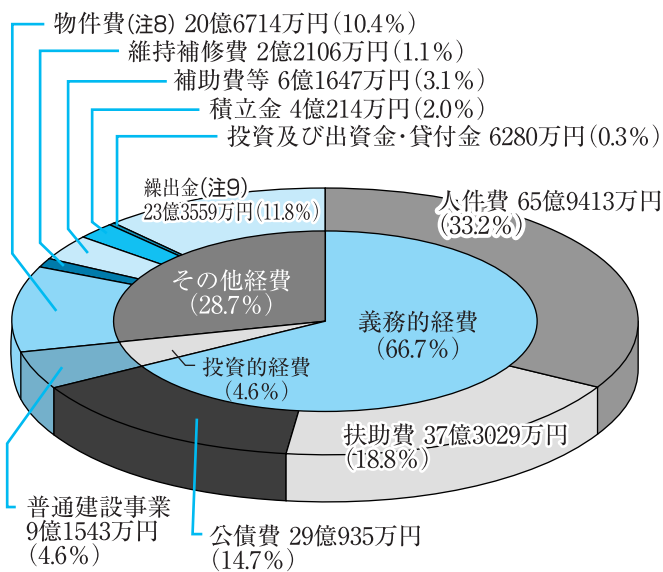
平成20年度の一般会計や特別会計、企業会計の決算がまとまりましたので、その概要をお知らせします。金額は千円以下を四捨五入しています。()内は19年度決算です。

一般会計 決算総額は11%減少

歳入総額201億8420万円



歳出総額198億5440万円



平成20年度一般会計決算額は、クリーンセンターの建設工事が終了したことなどにより、歳入が201億8420万円(225億6643万円)、歳出が198億5440万円(223億7743万円)で、ともに前年度より約11%減となりました。

歳入から歳出を引いた形式収支は3億2980万円の黒字となりました。しかし、これは基金(家計という預貯金)などを取り崩してやり繰りしている状態で、依然として厳しい財政状況が続いています。

歳入 市債や市税が減少

全体では前年度比10・6%減の201億8420万円(225億6643万円)になっています。主なものとしては市税の83億6794万円(84億5382万円)、続いて地方交付税(注1)36億4047万円(35億5458万円)、国庫支出金(注2)20億9983万円(24億548万円)、市債(注3)14億7590万円(35億5220万円)となっています。競艇事業からの繰り入れ3000万円(3000万円)を含む諸収入は4億4697万円(8万円)、市債(注3)14億7590万円(35億5220万円)となっています。競艇事業からの繰り入れ3000万円(3000万円)を含む諸収入は4億4697万円(8万円)です。

歳出 20年ぶりに200億円割れ 公債費は増加

全体では前年度比25億2303万円(11・3%)減の198億5440万円(200億0000万円)を割り切りました。歳出額の大きい順に人件費65億9413万円(66億7992万円)、扶助費(注4)37億3029万円(37億2159万円)、公債費(注5)29億935万円(27億2337万円)です。これらは義務的経費(注6)と呼ばれ、合計額132億3377万円(131億2488万円)で前年度比で1億889万円(0・8%)増加しています。投資的経費(注7)は9億1543万円(37億4204万円)になっています。

昨年度に比べ大幅な減額は、クリーンセンター建設事業が終了したことにより、投資的経費が2億2661万円と75ポイント減少したことが主な要因です。人件費は団塊世代の大量退職に伴う退職手当増がありますが、人員の削減や給与カットなどにより8579万円減少しています。昨年度に比べ公債費が1億8598万円、扶助費が870万円増加しています。

平成20年度決算に基づく健全化判断比率

早期健全化基準…下表の4指標のうち1つでも早期健全化基準を超えた場合、財政を自主再建する早期健全化団体になり、一部の市債発行が制限されます。

財政再生基準…将来負担比率を除く3指標のいずれかで基準を超えると、国の監督を受ける財政再生団体になり、予算編成などを総務省や知事が監督するようになります。

項目	実質赤字比率(注10)	連結実質赤字比率(注11)	実質公債費比率(注12)	将来負担比率
平成20年度決算数値	-% (△1.63%)	-% (△26.66%)	13.9%	162.7%
早期健全化基準	12.94%	17.94%	25.0%	350.0%
財政再生基準	20.00%	40.00%	35.0%	

※-は黒字のため、実質赤字比率と連結実質赤字比率がないことを示します。

※かっこ内は黒字の比率をマイナス表記しています。

依然として厳しい財政状況

クリーンセンター建設が終了したため、市債は大幅に減少し、市債残高から基金(貯金)などを差し引いた実質的な将来の財政負担額は、約247億9000万円、前年度より5億1000万円減少、率で2.0%改善しました。また、基金の取り崩しはありますが、左表が示すとおり実質的な赤字にならないように行財政改革を推進しています。しかし、景気低迷により昨

年度に比べ税収は1.0%減少し、競艇事業の繰入金金は18年度以降3000万円で低迷しています。一方、義務的経費が市税や交付税などの経常的収入に占める割合を示す経常収支比率は、前年度比で2.2ポイント上昇し、財政構造の弾力性を失いつつあります。また、実質公債費比率は0.8ポイント悪化しており、依然として厳しい財政状況が続いています。

一般会計 ◆ 主な使い道 ◆

民生費……………計68億1,828万円
 ▶ 自主防災組織活動補助など防災事業……………545万円
 ▶ 自治振興組織運営助成などコミュニティ関係費……………1,040万円
 ▶ 国保特別会計へ繰出金……………4億6,095万円
 ▶ 介護保険特別会計へ繰出金……………7億1,742万円
 ▶ 後期高齢者医療費……………7億1,996万円
 ▶ 自立支援給付費……………4億9,507万円
 ▶ 重度心身障害者等医療費……………1億4,292万円
 ▶ 老人無料バス委託料……………4,659万円
 ▶ 児童扶養手当……………2億2,416万円
 ▶ 乳児医療費助成……………1億1,207万円
 ▶ 延長保育……………6,537万円
 ▶ 放課後児童健全育成(児童クラブ)事業……………5,067万円
 ▶ 児童手当……………4億2,932万円
 ▶ 私立保育所運営事業……………10億1,938万円
 ▶ 生活保護費……………9億4,433万円

衛生費……………計14億271万円
 ▶ 予防接種費……………4,706万円
 ▶ 合併浄化槽整備……………1,627万円
 ▶ ごみ対策事業……………3億638万円
 ▶ ごみ減量啓発事業……………7,047万円
農林水産業費……………計4億7,889万円
 ▶ 担い手対策など地域農政推進事業……………1,133万円
 ▶ 水産業振興事業……………4,889万円
 ▶ 農業基盤整備……………2,975万円
 ▶ 産地育成・地産地消推進事業……………349万円
商工費……………計3億7,836万円
 ▶ 観光のまちづくり交付金事業……………4,393万円
 ▶ 企業立地奨励補助など商工団体助成……………4,181万円
 ▶ 金融対策事業……………6,028万円
 ▶ 観光振興施策推進事業……………3,080万円
土木費……………計13億4,033万円
 ▶ 公共下水道事業特別会計へ繰出金……………1億9,799万円
 ▶ 木造住宅耐震診断・改修支援事業……………1,009万円
 ▶ 橋りょう耐震化事業……………2,863万円

用語説明
 ▼ 地方交付税(注1) ……自治体の財政力に応じて国から交付されるお金
 ▼ 国庫支出金(注2) ……国庫補助金・国庫負担金など国が用途を特定して交付する資金
 ▼ 市債(注3) ……建設事業などに充てるための借入金
 ▼ 扶助費(注4) ……生活保護費や福祉施設での高齢者や障がい者のお世話に必要な費用
 ▼ 公債費(注5) ……市債の返済に充てる元金と利子
 ▼ 義務的経費(注6) ……人件費や借金返済など、必ず支払わなければならないお金
 ▼ 投資的経費(注7) ……道路整備や施設建設、災害復旧などに使うお金
 ▼ 物件費(注8) ……消耗品、印刷製本費、光熱水費、旅費など消費的性質を持つ経費
 ▼ 繰出金(注9) ……国民健康保険・老人保健・介護保険事業などの特別会計に繰り出されるお金
 ▼ 実質赤字比率(注10) ……一般会計等(普通会計)を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率
 ▼ 連結実質赤字比率(注11) ……全会計を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率
 ▼ 実質公債費比率(注12) ……自治体の借金返済にあたる公債費等の標準財政規模に対する比率

モーターボート競走事業

27日のリレーナイターを含む場間場外発売を245日実施したほか、GI競走および一般競走開催時の他場委託発売(場外発売)を実施するなど、積極的に事業展開を図りました。年間156日を開催、入場人員は395,135人(6.1%減) 前年度比

舟券売上金	219億520万円	3.1%増
総収益額	382億5,080万円	9.2%増
総費用額	381億2,609万円	7.8%増
純利益額	1億2,471万円	
一般会計への繰出金	3,000万円	前年同額

水道事業

前年度比

純収益額	13億420万円	3.2%減
総費用額	12億4,781万円	1.4%増
純利益額	5,639万円	

給水人口 6万3,332人

給水量(有料分) 957万471^ト(4.3%減)

運輸事業

高島・粟津・運動公園の3路線を20年末に廃止、21年1月から地域バスに移行し、スリム化を図りました。県補助金を活用し3停留所施設を改善しました。 前年度比

事業総収入	3億2,284万円	1.4%減
事業総費用	3億3,012万円	6.4%減
純損失額	728万円	

輸送人員 557,239人(乗り合い82% 競艇貸切18%)

国民健康保険事業

1億3,961万円の黒字

【歳入】 76億1,114万円

- ▶国民健康保険料 …………… 14億9,434万円(19.6%)
- ▶一般会計からの繰入金 …………… 4億6,095万円(6.1%)

【歳出】 74億7,153万円

- ▶保険給付費 …………… 49億4,450万円(66.2%)

老人保健事業

541万円の黒字

本事業は老人保健法の全面改正により平成20年4月から後期高齢者医療に移行したことで、主に遅延請求による決算になっています。

【歳入】 6億9,695万円

- ▶支払基金交付金 …………… 3億6,483万円(52.3%)
- ▶一般会計からの繰入金 …………… 5,692万円(8.2%)

【歳出】 6億9,154万円

- ▶医療諸費 …………… 6億7,230万円(97.2%)

後期高齢者医療

1,591万円の黒字

【歳入】 5億8,576万円

- ▶後期高齢者保険料 …………… 4億1,434万円(70.7%)
- ▶一般会計からの繰入金 …………… 1億7,092万円(29.2%)

【歳出】 5億6,986万円

- ▶広域連合納付金 …………… 5億2,970万円(93.0%)

介護保険事業

9,443万円の黒字

【歳入】 50億7,715万円

- ▶介護保険料…………… 9億5,207万円(18.8%)
- ▶一般会計からの繰入金 …… 7億1,742万円(14.1%)

【歳出】 49億8,272万円

- ▶保険給付費…………… 44億3,082万円(88.9%)

その他特別会計の決算

会計名	歳入総額	歳出総額	差引額
公共下水道事業※	10億5,216万円	10億4,149万円	1,067万円
公設地方卸売市場事業	3,540万円	3,501万円	39万円
産業団地開発事業	9,670万円	9,633万円	37万円
住宅新築資金等貸付事業	3,085万円	3,002万円	84万円
文化会館事業	9,676万円	9,428万円	249万円
光熱水費等支出	5億6,063万円	5億6,063万円	0円
給与費等管理	66億5,019万円	66億5,019万円	0円
公債費管理	31億5,852万円	31億3,852万円	2,000万円

※公共下水道事業…平成13年度から始まった第1期事業認可区域111^ノの進捗率は、20年度末で総事業費45億円の中の34億4,040万円で76.5%、管渠総延長34.8^キの中の19.3^キで55.5%になっています。

第4回定例会

議長に野田氏、副議長に川田氏を選出

平成21年第4回定例会市議会が昨年12月21日から1月22日まで開かれ、議長に野田粹之氏、副議長に川田達司氏が選出されました。

選出された議長には、横井茂樹氏が選任されました。また、各常任委員と議会運営委員は次のとおり決まりました。



横井 茂樹
監査委員



川田 達司
副議長



野田 粹之
議長

- 〔印は委員長、○印は副委員長、敬称略〕
- 〔総務文教〕○宮崎光明、○宅川靖次、榎原幸告、佐藤絹子、藤田茂男、松浦富子、山根巖
- 〔生活福祉〕○東正昇、○林勝義、○秋岡芳郎、上田公司、潮崎焜及、山本秀、横井茂樹
- 〔産業建設〕○三津良裕、○大石美智子、谷崎徹、坂東成光、平塚保二、橋本國勝、川田達司
- 〔予算決算〕○山本秀、○秋岡芳郎
- ※議長を除く全議員が所属
- 〔議会運営〕○橋本國勝、○榎原幸告、○秋岡芳郎、○潮崎焜及、○山本秀、○三津良裕、○谷崎徹、○坂東成光